



## 理科年表ジュニア

理科年表ジュニア編集委員会 編  
丸善株式会社, 184 ページ, 1000 円+税

解説書・  
資料集  
お薦め度  
☆☆☆★★

信頼性と権威があり、価格や流通などの面で入手しやすい標準データブック。それはどんな分野でも必要な出版物である。「六法全書」「国勢図会」「広辞苑」「大英和」「聖書」などがそれにあたるだろう。理ではむしろ「理科年表」である。

しかし、こうした標準データブックはおうおうにして使いにくい。そこで必要になるのは、信頼性や権威はそのままに、冗長な部分ははぶき、解説などを多くした書物である。本書は、まさにそうしたコンセプトに従って作られている。

出版タイミングもよい。近々、小中学校などで「総合的学習の時間」という科目が新設される。この科目は教科書はなく自分たちでテーマを見つけ調べていく。「理科年表」も当然必要だが、小中学生、いや教員でも使うのはつらい。だからまず出版そのものに拍手をおくりたい。その一方で「発刊によせて」の下に「この本は『理科年表』とは直接の関係はない」とあるのは納得できない。編集責任が国立天文台と別なのはいいが「理科年表に準拠」でないと意味がない。数千万人の初学者のために関係者の調整を期待したい。

さて、本書の内容だが、まず本家と大きく違うのはあつかう分野ある。本家では、暦・天文・気象・物理／化学・地学・生物の6分野だが、こちらは、暦・天文・気象だけである。後半の3分野は来年度以降に順次加わることを期待したい。

装丁は評価できる。サイズは本家より大ぶりでもくりやすい。ペーパー装だがコートした紙を使っており野外使用にも耐えるだろうし、コピーしても裏写りしない。さらに図の印刷などもシャープである。本書は図が多いがそれにマッチしてい

るといえる。ただ印刷のコントラストは強すぎる。

次に各分野をみていこう。暦部は、気象の記述もある月々のカレンダーからはじまり親しみやすい。主要な天象について、解説ページへのポイントがあるのも親切だ。下部には隔月に星図が配されている。ここには初学者の関心の高い誕生月の星座はすべて掲載されているなど配慮が見られる。

また、日食もすべて暦部にするなど、毎年変化する記述をまとめた感じである。そのかわり、暦のシステムや社会的な内容についてはかなり落とされている。学校では時と暦についての解説書が少ない。評価がわかる部分であろう。

次に天文部であるが、「主な星座の探し方」「天体写真の撮影法」「夜空の暗さを調べる」など実践的内容があるのが特徴だ。そのぶんデータ表の類は精選されている。しかし略号や位置の目安として頻繁に使われている星座の表がないのはどうだろうか。専門用語も完全には整理し切れていないし、表現面でも流星にルビがあるのに、赤経や恒星にはないなど不徹底も見られる。ただ恒星の固有名などのカナ表示はよい。天文月報もアルファベットを使わない約束だが基準がなかった。

最後の気象部については、評者の能力を超えるので論評しないが、インターネットのホームページ集は評価できる。どの情報源が信頼できるのか初学者には判断しがたいからである。他の部門にも書籍を含めて充実したリソース集を望みたい。

本書は全般に意欲的である。しかし、まだ不徹底だし荒削りだ。今後の発展を期待したい。

渡部義弥（大阪市立科学館）